

自然豊かな学校で、 学生と真剣勝負。

学園祭の第2弾記事。来年度から子どもコミュニケーション学科が開設される。そこで、「子どもコミュニケーションフォーラム」が開催された。絵本作家で子どもコミュニケーション学科客員教授就任予定の有賀忍さんにお話を伺った。(文: 片田正記)



上: 有賀忍さん。右下: こどもコミュニケーションフォーラムのボランティアをした教職課程の学生たち。中下: こどもたちと触れあった。左下: こどもコミュニケーション学科のマスコミキャラクター「エドペン」。(撮影: 大井友香)



来春、江戸川大学に子どもコミュニケーション学科が開設される。これを記念して11月3日に駒木祭で、「子どもコミュニケーションフォーラム」が開催された。

午前中は内田伸子氏の講演会、「こどもの創造的想像力を育む」が行われた。午後の絵本作家有賀忍氏による「創造的造形遊び『覆面仮面で大変身!』」では、こどもたちが折り紙を使い、切ったり、貼ったりしながら創意工夫して遊ぶ時間を持った。このワークショップには、教職課程の学生がボランティアで参加し、近隣のこどもたちと交流した。

来年度から子どもコミュニケーション学科の客員教授を務める有賀忍さんは、この大学の第一印象を「緑豊かな学校」だという。「自然豊かな場所、素朴な学生が多い」とのこと。着任されたばかりの先生は、「責任のある仕事ができる」ということ。そこにやりがいを感じました」と話した。

有賀忍さんは、主に演習実習を担当する。そこで目指すべきものとして「真剣勝負」という言葉をつかう。「自分で体験したことが、生きた知識になります。授業を受けた学生は、自分の教科書を作って欲しい。そのため、学生たちと真剣勝負をしていきたいですね。」

こどもコミュニケーション学科のマスコミとなる「エドペン」。これも有賀さんがデザインした。キャラクターのコンセプトは「越える」。不屈の魂、挫折しない心で、困難を必死に乗り越えていく強さを持つ、様々な情報を得られる長い耳を持つペンギンだ。

「キャラクターはただ可愛いだだけではいけない。込められた思いが重要。大学全体で共有してもっと育てていきたいですね」と話し、今後はウェブなどでマンガにして連載も考えているという。

【有賀忍(ありがしのぶ)】昭和20年生まれ。信州育ち。満州に生まれ、現代童画大賞を受賞し、大学在学中も創作活動を続ける。絵本作家「こんなこいるま」(小学館)、「クレヨンまなぶ」(小学館)、「エドペン」(小学館)など。現在、信州大学で教職課程の学生として活躍中。

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課